

---

# 燈江組

しみちゃん

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

燈江組

### 【Nコード】

N0636E

### 【作者名】

しみちゃん

### 【あらすじ】

平凡な女の子が、ある日突然、燈江組組長の娘になった。

## 第1話 勘違いから始まった

私は今日、松見花音から、燈江恭子となった。

数時間前

眠い目を擦り、目覚めた私が居たのは、見覚えの無い事務所だった。

「ここ…何処だ！？」

思わず叫ぶ。

確か、昨日は家で寝てたはず…。

なのに起きた場所は、見知らぬ事務所。

こんな奇妙な事があるだろうか？

もしかして、誘拐だろうか…？

そう思うとぞっとした。

（謝り倒して、帰してもらおう…）

ギィ…

ドアの蝶番が軋む音がした。

そして…一目で『ヤクザさん』と解る人が入って来た。

（こっ…殺されるっ！！）

そう思った矢先だった。

「お目覚めですか！お嬢！！！」

朝から近所迷惑な程の大声で『ヤクザさん』は叫んだ。

(え…何？てかお嬢つて…？え…？？)

「はあああああああああ！！？」

そして、何処に隠れていたのだろうか、大量の『ヤクザさん』が部屋に入って来た。

「ええええええええええええええええ！！！」

状況が全く理解出来ません。

「おい。」

えー… 今私の目の前にヤクザさんのボスらしき人が立っています。  
(やっぱり殺されるぅ!!!!)

「恭子…恭子おおおおお！」

は？

「恭子お！何で家出なんてしたんだあ！！！！お父さん悲しくてブロークンハートだったぞお！！」

泣きじゃくるオッサンが私に抱き付いてきました。

鼻水が服に付いたし、何よりこのオッサン、加齢臭がします。

「もう、家出なんてさせないからな!!」

どうやら、私は「恭子さん」と勘違いされたそうです。

そして…

「お嬢おおお！！！」

ヤクザの皆様も集って来ました。

この状況からすると…私が恭子じゃないって言うたら…『DEATH』ですか？

ちよつとちよつと…笑えない冗談なんですけどおおおおおお！！

前略 母上様。

私は極道と一緒に生活せねばならぬようです。  
助けてください。

てか…まじで誰か助ける！！！！

私と、燈江組の皆との生活は、始まった。

## 第2話 恭子さん

今私は、とてもファンシーな部屋の中に居ます。

やっぱり、この若さで一生を終えたくないの、当分『恭子さん』になりすます事を決めました。（だってまだ中二だもん。）

多分この部屋は恭子さんの部屋でしょう。

やっぱり女の子と言わなければいけないのか、部屋がとても可愛い。

（私の部屋なんて、まるでゴミ溜めだよ…。）

恭子さんの机には、オッサン（組長さん）と撮った写真があった。

オッサンがデレデレと笑っているのがキモかったけど、それ以上に驚いた事があった。

恭子さんと私は…全くとって良い程、同じ顔をしていた。

「ええ ええ ええ ええ ええ ええ ええ ええ!!??」

本日二度目のビックリ。

ポケットに入れていた携帯を取り出した。

ブルルル…ブルルル…

何度かのコールの末、母は電話に出た。

「はい、もしも「母さん! ? 私って双子! ! ! ? 」

「元気ね、そんな訳ないじゃない。」

「てか、助けてよ!!! ヤクザの娘と勘違いされて困ってんだけど  
!!!!!!」

「あら、そうなの？でもヤクザさんって何だかんだ言ってお金持

ちでしょ？頑張ってww」

そう言って母は電話を切った。

何を頑張るんだよおおおおおおおお！！！！

適当にと程があんぞおお！！？

え、ちょ、もおお！！！！

意味解んねえよ！！

だれかHelp me！！！！

ブルルルル…

「もしもし！！？」

『花音ちゃん？お母さんね、仕事でフランス行く事になったから  
↓w一年は帰らないと思うから。じゃーねww』プチ…

プ…プ…

ふ・ざ・け・ん・な・よおお！！！！

ちよとお…泣いて良いですか？

あ、やべ。視界が霞んできたわ。

「恭子ちゃんww」

語尾にハートマークを飛ばしながらおっさんが部屋に入ってきた。

はつきり言って、キモイ。

吐きそうな位、キモイ。

果てしなくキモイ。

「キモいから近づくなw」

やっべー…本音言っちゃった。

私って素直だよなあ。

我ながら感心するよ。

「ええ〜。お父さんまたまたブローケンハートだぞあ」

えー…『って。

まじk i・m o・i。

どん引きだよ…。

8月10日（晴れ）

組長ことおっさんが凄えキモかった。

恭子さんが家出したのも解る。

見知らぬ人物に初めて同情した。

でもこのままだとストレスではげそうなので、恭子さんに早く帰ってきてほしい。



### 第3話 私の一日

「おはようござえますー!!お嬢!!--!」

朝から迷惑ですよ、トシさん…。

しかもまだ朝の5:30です…。

「お嬢!!朝です。起きてくだせえ!!!--!」

「うるっせえええええ!!!--!」

バンツ!!

「朝から叫んでどうした、恭子おおお!!!--!!--!」

「黙れやあああ!!!--!まだ眠いねん!!寝かせろやあああああ!!!--!」

「そんなあ!!お父さんBroken heartだぞう!!!--!」

おはようございます。

朝っぱらから不機嫌な(偽)恭子ちゃんでーす…。

これから学校へ行ってきます…。

「おはよう!!!--!燈江さん。」

「おはよう…。」

誰だこいつ。

えーっと…今私は『恭子さん』が通学していた学校に通っています。本当に私は『恭子さん』と似ているらしく、誰も気付きません。でもばれやしないか…内心ドッキドキです。

一時間目、数学。

だるいのでサボる事にしました。

二時間目、現国。

さぼります。

三時間目、科学。

さぼります。

ワオ さぼりまくり。

なんやかんやでお昼の時間。

眠いので帰りました。

「お嬢！……！こんなに早く帰ってくるなんてどうしたんですか！  
！！？」

だからうるせえつつうの、トシ。  
いい加減声のボリューム下げろ。

「そんなあ……ヒドイ事言ってくれやすぜ、お嬢。」

え、何？

今心読んだ……！！？

「嫌だなあ……んな事出来るはず無いじゃないっすか。」

いやいやいやいや。

確実に読んでんだろ手前。

「それよりお嬢……学校はどうしたんですか……！？ま……まさか虐め  
とかですか……！！？主犯は誰っすか……！！？殺してきやs」違つか

ら！！たるいからサボっただけだから！！！」

目が血走ってますよ、トシさん…。

「サボったって…皆の者オオオオオ！！！！お嬢がご乱心じゃあああ  
あああ！！！！！」

「うるせえええええええええ！！！」

サボっただけで何で乱心なんだよ…。

ドドドドドドドドドド…

ん？

何かすつげえ嫌な予感

「恭子オオオオオ！！！！学校をサボるなんてどうしたんだああ  
ああ！！！！！！！」

「離れるクソじじiiiiiiii！！！！！」

オッサンが抱きついて来たよ。

てか臭っ！！！！

加齢臭がする…。

あ…ダメだ。

意識が……………。

ここで私の意識は途切れた。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0636e/>

---

燈江組

2010年11月12日11時40分発行